

第3回市民公開講座「こまできたがん治療」

「胃がんの治療を受ける方のために」

消化器外科 医長 松本 英男

胃癌治療は胃癌取り扱い規約、胃癌治療ガイドラインに沿って行っている。

胃癌の定型的手術法は2/3以上の胃切除と2群のリンパ節郭清である。すなわち、胃中部・下部の癌では幽門側胃切除、上部の癌あるいは広範囲な癌では胃全摘である。定型的手術を行うと、胃切除後症候群といった術後の障害が起こりうる。これにはダンピング症状、吸収障害、胆石症、下痢、逆流性食道炎といったものがあるが、こうした術後障害を軽減する目的で機能温存・縮小手術を行っている。主に早期の癌がこの適応となるが、当科ではLES温存胃全摘術、LES神経温存噴門部分切除術、腹腔鏡補助下神経温存幽門側胃切除術、センチネルリンパ節領域の郭清と局所切除といった術式に取り組んでいる。

化学療法が進歩により、切除不能胃癌の治療成績も向上している。特に出血・狭窄といった症状のため経口摂取が不能な進行胃癌に対しても、経口摂取が可能となるように切除再建を行いその後、外来での通院治療を行うことで生存期間の延長が可能となった。